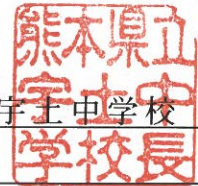


(別記第 6 号様式)

令和 6 年 3 月 1 9 日

宇城地区租税教育推進協議会会長 様

学校名 熊本県立宇土中学校
校長名 横川 修



租税教育実践報告書

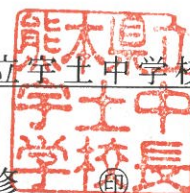
実践項目	実施月日	時間数	実践内容
税に関する実態調査			アンケート実施
税に関する作文・習字制作	夏期休業		対象：1・2年生全生徒 3年生希望者
第1回租税教室	9月	2時間	対象：2年生 講師：松田夏樹様 (宇土税務署) 内容：税の役割に関する講義
第2回租税教室	12月	2時間	対象：2年生 講師：宇土市役所職員様 内容：市役所の実施する地域振興等における税の役割について学ぶ
租税に関する授業		1時間	対象：1年生 『租庸調制』 対象：2年生 『明治の三大改革』
実践成果調査	3月		アンケート実施

(注) 実践報告書は、地区租推協会長へ3部提出すること。

令和 5 年度租税教育実践成果報告書

学校名 熊本県立宇土中学校

校長名 横川 修



1 令和 5 年度の実践計画

(1) 研究主題

「身近な地域を題材に協働学習を通して、税について考える生徒を育てる」

(2) 主題設定の理由

今回、租税教育の対象の中心としたのは 2 年生 70 名である。本校中学 2 年生は総合的な学習で地域課題解決プロジェクトを実施しており、その中で地元の課題について考察し、解決策を提案していく活動を行っている。今回、租税教育の研究指定を受けるに当たってこのプロジェクトと関連付け、地域解決策の提案に税の視点を取り入れて欲しいと考え本主題とした。身近な地域の課題解決を目的とすることでより生徒に身近な話題となり、当事者意識を持って租税教育に取り組めると感じた。

(3) 生徒の実態（税に関する実態調査 報告）

本校は中学受験をして入学してくることもあり、税に関する基本的な知識を持っている生徒が多い。次の資料は 6 月アンケートにおいて「3 あなたが知っている税をできるだけ多く記入してください。」という質問をした際の生徒回答をテキストマイニングしたものである。

(4) 実践計画

(別記第3号様式)

令和5年6月 日

宇城地区租税教育推進協議会会長 様

学校名 熊本県立宇土中学校

校長名 横川 修

租税教育実践計画書

実践項目	予定期日	実践内容	備考
税に関する実態調査	6月	○アンケートの実施	
税に関する作文・ 習字 作品制作 租税教室	夏休み 9月	○作品制作の呼びかけ（全学年） ○中学2年生を対象 （税の必要性について）	
税に関するワークショップ	10月	○宇土財政・税制をテーマ に宇土市の課題解決策を検討する。	
社会科授業実践	1年生：2学期 2年生：3学期 3年生：2学期	○社会科の各単元で実施 「世界の税」（地理分野） 「地租改正」（歴史分野） 「税制度」（公民分野）	
実践成果調査アンケート	2月	○アンケート調査の実施	

2 令和5年度の実践内容

(1) 税に関する作文・習字 制作

本校では社会科の夏期休業期間中の課題として、「税に関する作文」の作成を設定した。1・2年生については全員提出、3年生については希望者のみの提出としており、169人の生徒（全校生徒220人）の生徒が取り組んだ。今回、課題を設定するに当たり1・2年生には次のループリックを示し、作成を促した。

宇土中学校 1・2年生社会 夏休み課題【税に関する作文】		
ループリック		
評価番号		
1 主体的に学習に取り組む態度		
A	B	C
1000字以上書くことができている。 (3枚目の半分以上)	801字以上書くことができている。 (3枚目に入っている)	800字以下書くことができる (2枚目まで書いている。)
2 知識・技能		
A	B	C
「令和5年度私たちの暮らしと税金」や自分で調べたことなどにも触れて作文を書くことができている。	「令和5年度私たちの暮らしと税金」の内容に触れて作文を書くことができている。	客観的事実の基づいて書くことができている。自分の感覚、憶測、推測のみに依拠して書いている。
3 思考・判断・表現		
A	B	C
自己の経験に関連付けてながら事実をもとに作文を書くことができている。	自己の考えをきちんと述べるができている。	自分の考えを表現することができている。

どの生徒もループリックに沿ってそれぞれの思いを表現していた。169作品中、ループリックに従いより良かった14作品を宇城地区租税教育推進協議会に提出した。入選した作品が次の通りとなる。

賞	学年	氏名
熊本県納税貯蓄組合連合会長賞	2	小澤 賢人
宇土税務署長賞	1	田中 杏
宇土税務署長賞	2	畑中 千遙
宇土法人会長賞	2	谷川 晶
宇城地区納税貯蓄組合連合会長賞	1	寺岡 希悠
南九州税理士会宇土支部長賞	3	堀田 舞衣
熊本宇土農協税務担当者協議会長賞	1	金田 大樹
宇土小売酒販組合理事長賞	1	園田 葵彩
宇土間税会長賞	1	山本 佳蓮
宇城地区宅建業税務協議会長賞	2	園田 陽花
宇土法人会青年部会長賞	1	川端 深月

(2) 第1回租税教室(令和5年9月29日(金)3・4時間目)

【実施要項】

宇土税務署の松田夏樹様に租税教室を実施していただいた。税の意義や海外との比較など税について全般的に授業をしていただいた。第2回の租税教室の事前学習という意味合いがあったため、基本的なことを丁寧に説明していただき、生徒の理解も進んだようであった。

中学校社会科 令和5年9月20日	
令和5年度 租税教室	
1 目的	身近な税について関心を持ち、税の意義や役割について正しく理解する。
2 日時	令和5年9月29日(金) 3・4限目
3 場所	学習室AB
4 対象	中学2年生(70名)
5 講師	宇土税務署 総務課 総務係長 松田 夏樹 様
6 内容	・税に関する基本的事項に関する講義 ・グループワーク
7 日程	～10:35 2限目授業 10:35～10:45 学習室ABへ移動 10:45～10:55 講師紹介 10:55～11:55 租税教室(60分) 11:55～12:05 質疑応答 12:05～12:10 謝辞、講師退場 12:10～12:35 感想記入
8 その他	・12月頃に実施予定のワークショップ(税務署・宇土市役所と調整中)の事前学習と位置づけて実施。 ・3時間目は社会科、4時間目は学活(総合)としてカウントする。

【生徒の感想】

今までは、税金についての詳しいお話を聞く機会はなかったので、今回は初めてでしたが、今日の授業を受ける前と受けたあとでは、税金に対しての見方が変わった気がします。よく、「税金は私達が豊かな生活を送るために必要なものだ」ということを耳にしますが、正直あまり実感が湧いていませんでした。ですが、DVDを見たり、問について考えることによって、税金はとても大切なものなんだと改めて知ることができました。これから、たくさんの税のニュースや、自分に関わることも出てくると思うので、自分の生活を支えてくれるものなんだ、という意識を持って生活していきたいと思います。

(3) 第2回租税教室(令和5年12月1日(金))

【概要】

本租税教室は宇土市役所の税務課・まちづくり推進課・企画課の方々に協力していただき、地域振興と税を関係づけて学習に取り組んだ。

本校2年生は総合的な学習の時間に地域課題解決プロジェクトとして地域の課題解決策のプレゼンテーション(ポスター)の作成を行っている。その中で、現実的に即して地域解決策を提案して欲しいと考え本学習を企画した。

【実施要項】

【内容】

各クラス（35名）を4グループに分け、さらにグループ内でA班B班に役割分担をさせた。右図「7日程」の【3限目】ではA班・B班がそれぞれ宇土市の税財政、宇土市の地域振興策について講義を聴いた。その後、【4限目】にはそれぞれで聞いたことをベースにして各グループで話し合い活動に取り組んだ。話し合いではまず各班が聞き取ってきたことを共有した。その後、宇土市で解決したい課題を設定し、その課題解決のための提案と財源を話し合った。市役所の方がたにも話し合いを見ていただき、適宜コメントをしていただいた。生徒たちは、講義で理解できなかったことや提案についてのアドバイスを求めている。またお互いに意見を出し合う場面も多く見ることができた。12月1日以降の最初の社会科の授業で、企画書のまとめをして完成したのが次の資料である。

【企画書 2-2 1班】

中学生が考える宇土市の課題解決プラン【生徒作成】

1 現状分析

【財政・税制】	【地域課題】
宇土市は50%が固定資産税 法人税が意外と少ない こないだの庁舎建て替えてたくさん使った	人口減少 少子高齢化 空き家増加の問題

2 解決したい課題

宇土の人口がdown&空き家up
→宇土の魅力(財源)を増やすためにはどうするか？

3 解決するための提案

(1) 何をやるのか

空き家のランク割をしてA、Bは立て直して家にする→移住を促す。
C、Dは解体して新しい土地にする
近くに何があったら嬉しいか、また何があると人が来るか
旅館、コンビニ、遊園地、動物園、公園、水族館、ゆめタウン、デパート、保育園、中華街みたいな商店街。

(2) どのような影響・効果があるのか

立て直した家は安いから移住したい人を誘致できる→住民税UP
解体した土地は人を集める施設に→今まで福岡や熊本市内で遊んでいた人が少しはウトに遊びに来るかも→宇土の景気が良くなる
住みやすい街としての評価も上がり、SNSとかでも話題になったらもっと住民が増える。

4 財源をどうするのか

宇土の良さをYOUTUBEなどを使ってPR
必要な分のお金を市民から毎日1円とかで集める
宇土中高を良くする
文化祭とかを大規模にする
校舎をきれいにする
宇土中高見学料をとる
全国的なニュースに取り上げられるような出来事起こす
多くの一般人が参加できるようなことをする。
休日にグラウンドを開放→金を取る
制服を可愛くする
部活を強くなる
宇土中の亀を増やす。
購買を本格的な店にする
展示室を作る
有名人に紹介してもらう
宇土中高限定の商品を作る

中学校社会科
令和5年11月17日

令和5年度 租税教室

1 目的

- ・身近な税について関心を持ち、税の意義や役割について正しく理解する。
- ・宇土市政を参考に、地域振興策を考えるとともに、実現のための財源を考えることで税の重要性について考える。

2 日時 令和5年12月1日(金) 3・4限目

3 場所 2-1、2-2教室

4 対象 中学2年生(70名)

5 講師

- ・池田 忠陽 様(宇土市市民環境部税務課)
- ・稲崎 憲一 様(宇土市市民環境部税務課)
- ・島村 幸 様(宇土市企画財政部まちづくり推進課)
- ・益田 藍子 様(宇土市企画財政部企画課)
- ・大久保 俊 様(宇土市企画財政部財政課)
- ・西園 栄祐 様(宇土市市民環境部税務課)
- ・松田 夏樹 様(宇土税務署総務課)

6 内容

- ・宇土市の課題(行政、税制)について講義を受ける
- ・各班で宇土市の課題解決に向けた企画を立案し、税の視点から実現可能性を検討する。

7 日程

- ～10:35 2限目授業
- 10:35～10:45 各教室へ移動
- 10:45～11:35 【3限目】 グループごとに講義
- 11:35～11:45 休憩・移動
- 11:45～12:30 【4限目】 各班ごとに企画書作成
- 12:30～12:35 謝辞、講師退場

8 その他

- ・3時間目は社会科、4時間目は学活(総合)としてカウントする。

【結果】

生徒たちにとって財源を考える作業はとても難しかったようである。講義の中で予算の決め方なども学び、市役所の方々が制限の多い中で財源を捻出していることを理解したようである。また、「ふるさと納税」などの税収を上げる方法についても教えていただき、地域を活性化させていくことが地域を豊かにしていくために必要不可欠であることを学ぶことができた。そして、税があるおかげで私たちの生活が成り立っていることを学ぶことができた。

【生徒の感想】

○ これまでは税に関することは表面上の政策だったり課題だったり聞いて考えを深めていたのですが、今回は裏でどんな考えを持っているのか、どのような政策を始めようとしているのかを教えていただき、これまで以上に自らの考えを深めることができました。また、税金というのはいいこともあれば悪いこともあり、やりくりも難しいものだということも知ることができました。これからも今日学んだことを生かして更に学びを深めていきたいです。

○ 私は今まで自主財源は市に納める税金や繰入金だけだと思っていたけれど、寄附などもあり、それでまかなっているということにびっくりしました。ふるさと納税でできるとわかったので、私もやってみたいです。税のことを学んで宇土市の課題を考えると今までとは違った見方で考えることができ、宇土市について深くしれたかなと思うので、良かったです。

企画書については完成後、市役所の講義を担当していただいた方々にお送りしてコメントをいただいた。市としてできることとできないことなどもコメントしていただき、生徒たちのこれからの活動にも参考にすることができた。

【2-2 1班の企画書に関する市役所の方からのコメント】

市役所の方からのコメント

	担当課	2-2 1班		担当課	2-2 1班
財政・税制	税務課	宇土市の魅力・財源を増やすために、どれも良い提案だと思います。人口減少や空き家対策など、市役所が抱える課題は多くありますが、皆様の提案を参考に、今後も税収をより増やしていく取組を進めていきたいと思っています。	地域課題	企画課	宇土市に宇土高校・宇土中学校があることは、地域の財産であり、未来を担う皆さんはとても重要な存在です。ぜひこれからも、宇土市がどんなまちであってほしいか考え続けてほしいと思います。
	財政課	・SNS等でのPRは、市でも力を入れて頑張っていきたいと思っています。ただ、市役所には大人しかいないため、子どもや若い人の考えが分からない部分もあります。どんだんに意見を送ってください。 ・宇土中高を良くすることは、宇土市の発展にも繋がることなので、ぜひ頑張ってください。		まちづくり推進課	プランの4財源をどうするのかについて、宇土中高を良くする案が多数あがっています。宇土中高が良くなることは通いたい人が増えることに繋がります。このことは皆さんがすぐにできる宇土市の移住・定住の取り組みであると思いますので、継続して学校を良くする活動をお願いします。

(4) 租税に関する授業（社会科）

① 1 年生

年度当初は地理分野で関連学習を実施する予定だったが、できなかったため歴史分野「租庸調制」で実施した。基本的な税が誕生した背景とその結果について考察をした。

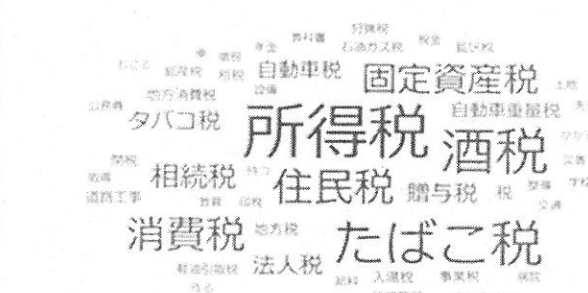
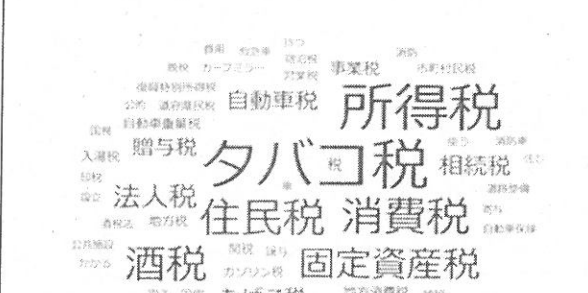
② 2 年生

明治の三大改革の授業で「地租改正」を取り扱った。「年貢」から「税」へと変わっていく中で、地租改正が明治新政府にとってどのくらい重要な改革だったのかを考察した。

3 令和 5 年度の実践成果と今後の課題

(1) アンケート結果の分析（実践成果調査の分析）

「3 あなたが知っている税をできるだけ多く記入してください。」という質問をした際の生徒回答をテキストマイニングしたものを比較したい。

事前アンケート	事後アンケート
	

事前アンケート・事後アンケートではっきりとした差や変化を読み取ることはできなかった。これは今回の租税教室が新たな知識を多く身につけることよりも、生徒たちが自分たちの生活と関連付けて考えることを重視したためかと考えられる。

次に各アンケートの結果を比較したい。アンケートの結果は以下の通りとなった。

2 あなたは税の使われ方を知っていますか		知っている	だいたい知っている	あまり知ら	知らない
	事前	35. 4	56. 1	8. 5	0
	事後	24. 6	65. 6	9	0. 8
4 税は必要だと思いますか。		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
	事前	67. 1	29. 3	1. 2	2. 4
	事後	62. 3	36. 9	0	0. 8
5 将来、税をきちんと納めたいと思いますか。		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
	事前	78. 0	18. 3	3. 7	0
	事後	78. 7	18. 9	1. 6	0. 8
6 税は国民の生活や暮らしに役立っていると思いますか。		そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
	事前	68. 3	25. 6	4. 9	1. 2
	事後	56. 6	39. 3	4. 1	0
7 税について家族と話すことはありますか		よく話す	たまに話す	ほとんど話さない	
	事前	4. 9	35. 4	59. 3	
	事後	1. 6	32	66. 4	

全体としては肯定的な意見（そう思う、どちらかといえばそう思う）という回答が多くなっているが、大きく数値が伸びたとはいえない状況である。また、「7 税について家族と話すことはありますか」という質問に対しては否定的な意見（ほとんど話さない）が増加しており、税が生徒たちにとって身近な話題となっていない現状が見られた。

（２） 今後の課題

生徒たちに税を身近に感じ、考えさせるにはどうすればいいかを考えていくことが大切であると感じた。アンケート結果でも明らかなように

税について家族と話す機会は非常に少なく、生徒たちが学校で学習した
ことと普段の生活を関連付けることができていないことが原因であると
考える。より身近な生活に関連付けた学習教材の開発が必要であると感
じた。

宇土市役所の方々と協力して行った租税教室は生徒たちにとってとて
も充実した時間になったと感じる。教員ではない大人が生徒の意見を真
剣に聞いてコメントを返し、一緒に考えてくれた経験は生徒にとっても
貴重な経験であった。授業後アンケートにおいても授業の内容を理解で
きたという質問に対して、98.4%の生徒が理解できたと回答しており
関心の高さがうかがえた。その反面、生徒たちには、新たな問いとし
て以下のようなものが出てきた。

- 熊本の給料が増えない理由、街が栄えない理由。
- なぜ国は借金がたくさんあると言われているのか。
- 地蔵まつりなど地域のイベントには出店しているお店には税金がか
かるのか。
- 宇土市に仕事場が少ないことで、日中は宇土市にいない人が多いと
いうのはわかったのですが、夜には宇土市にある自宅に帰るため戻っ
てきているので、なぜそれがだめなのかが疑問に思いました。（仕事場が
少ないことに対するデメリット）
- 宇土の課題を解決するためのお金は国から借りることができるのか
- 税金がかかっているがその税金の%はどうやって決めているのか？
（いっぱい使われていたら高くなるみたいなことがあるのか？）
- ふるさと税金でどのくらい利益が出ているのですか。また、一番売
れているものはなんですか。

【生徒アンケートからの抜粋】

これらの問いに対して私の知識不足もありまだ、生徒たちに返すこと
ができていないので、新たに時間を設けてさらに深掘りできるようにし
たい。そして、生徒たちが主体的に税について問いを深めていけるよう
にしていきたい。